



『アレppo 最後の男たち』プレス資料

監督: フェラス・ファヤード

配給: ユナイテッドピープル

104分/ドキュメンタリー/2017年/デンマーク・シリア

第90回アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門ノミネート作品

2017年サンドダンス映画祭ワールド・シネマ ドキュメンタリー・コンペティション部門グランプリ

他 世界中で23の映画賞受賞した作品

2019年4月13日(土) シアター・イメージフォーラムほか全国順次ロードショー

映画概要



5年以上も内戦が続くシリアの都市アレッポは崩壊の危機に瀕している。取り残された市民 35 万人は築かれつつある包囲網に逃げ場を失い、間近に迫る死に恐怖を懐きながらも何とか命をつないでいる。前触れなく轟音と共に飛来するジェット戦闘機は、わずかな希望すら打ち砕くごとく昼夜問わず爆撃を続け、市民もろとも市街地を瓦礫へと変えていく。ここでは生よりも先に死が存在する。爆撃に次ぐ爆撃で、次から次へと命が失われていく極限の世界で、悲劇が延々と続いていく。

現場には自らの命を顧みず、生き埋めとなった生存者を救おうと駆けつける男たち「ホワイト・ヘルメット」の姿がある。家族と逃げ、異国で難民として生き延びるべきか、それとも仲間や家族のいる故郷に留まり、変わり果てたが心安らぐ場所で死を迎えるべきか。「ホワイト・ヘルメット」の創設メンバーの一人、ハレドは葛藤を抱えながらも救助活動を続けていく。絶望の淵で彼らが見せる勇敢さ、そして眼の前で進行する信じがたい不条理な紛争の現実に、私たちは何を見出すことができるのだろうか。

監督: フェラス・ファヤード 共同監督: スティン・ヨハネセン

プロデューサー: ソーレン・スティーン・イエスパーソン、カリーム・アビード、ステファン・クロース

制作: アレッポ・メディア・センター、ラーム・フィルム

制作協力: DR TV、SWR/ARTE、SVT、RTS、NRK、YLE

撮影監督: ファディ・アル・アラビ 撮影: ティーア・モハメッド、モジャヘッド・アボ・アルジュード

編集: スティン・ヨハネセン、マイケル・バウアー 音楽: カルステン・フンダル

配給: ユナイテッドピープル 原題: LAST MEN IN ALEPPO

104 分 / ドキュメンタリー / 2017 年 / デンマーク・シリア

監督について フェラス・ファヤード (Feras Fayyad)



フェラス・ファヤードは受賞歴のある映画監督です。彼の監督作『on other side』により、シリア政府に2度拘束されたことがあります。彼は映画制作と芸術を学び、ドキュメンタリーとフィクション両方の映画を監督および編集をしています。アラブ世界の政治的変革や現代のシリア問題についての監督作は、国際的な映画祭で評価されています。他の監督作に、『Behind the White Color』と『My Escape』があります。

監督メッセージ

私達は映画や芸術の世に大義を問う役割を信じ、私達が心血を注いだ映画をお届けします。

2011年に起きたシリアの民衆による平和的なデモは、シリア政府が軍事的解決策で対応することにより徐々に武力衝突に発展していきました。反政府勢力が都市の主要部分の支配権を掌握していたアレッポで、政権は樽爆弾や戦闘機を使い、民間人をターゲットに攻撃を続けていました。シリア紛争は、善悪の境界線がぼやけてしまい、徐々に民間人を犠牲に飲み込むブラックホールようになってしまいました。誰もが自らの大義を優先し、勝利のために倫理をないがしろにしていました。そこで、市民は、シリア紛争の当事者たちとは異なる民間のグループを信頼するようになります。

そのグループが、国際的に知られることになったホワイト・ヘルメットです。2013年にアレッポで、私は初めてホワイト・ヘルメットと出会いました。彼らは樽爆弾が落とされた現場に急行していました。メンバーの全員が、できる限り多くの市民の命を救うために、命がけで現場に駆けつけていたのです。間もなくして樽爆弾による大爆発が起き、その時ホワイト・ヘルメットは多くのメンバーを失いました。この事故は、生存したメンバーのこれからの活動を継続する決意を固める最も重要な出来事となり、私は彼らについての映画を作ることにしました。

私は彼らが仲間を失ったことが、ますます瓦礫の下から命を救おうとする動機につながったことに惹きつけられました。彼らの視点を通じて、私はこの戦争の本質についてもっと考え、どう伝えるべきか考えるようになりました。そして、彼らの活動を伝えたいと思いました。

私はまた、困難に直面して生きる彼らの人生の精神的な内面にも迫りたいと思いました。そうすることが、シリア紛争で起きつつある過激主義、憎しみの連鎖、そして人類の価値や尊厳について疑問を投げかける機会になると感じたからです。また、テロリズムや大量殺戮といった戦争犯罪が行われている現場において、国際法の役割や重要性も伝えるべき主題の一つでした。この映画は、戦争の現実や戦争の不条理さの瞬間を捉えたドキュメンタリーです。登場人物たちと距離感が近いため、時間の共有がしやすいはずです。

人間性を最も感じる瞬間は、主人公のハリード・オマル・ハラーが、瓦礫の下から生存者を救うために手を差し伸べた瞬間でしょう。その瞬間は、ミケランジェロの絵画「アダムスの創造」と全く同じ構図です。この瞬間は、根源的な人間としての在り方を示しており、戦争の恐怖からの解放を訴えています。『アレッポ最後の男たち』は、テロリズム、孤立、国家主義、政治や宗教的過激主義などの大きな課題に直面した際の平和や人間性の必要性を問う映画です。

この映画は希望についての映画です。そして、非道な殺戮を前に私たち人類としての根源や集団として何をなすべきかを問う映画です。また、許しを理解し、復讐を克服するための道具でもあります。私達のヒーロー達が、彼らの死をもたらした人々さえも救うとき、許しを理解できるでしょう。また、この映画は、あなた自身の人生が、誰かの命を救うことができるかもしれないことを示唆する、人生の意味を問う映画でもあります。願わくば、この映画によりホワイト・ヘルメットが世界的に認知される機会となることを願っています。彼らの活動を伝えることは、シリア紛争を伝えることにもなります。結果、現在進行系で続く悲劇に終止符を打ち、平和の到来への行動につながることを期待しています。少なくとも、助けを求めている人々に、支援が集まることを願います。戦争は、人間の中で最悪の事態を引き起こしますが、それはまた、私たちの中でも最善のことももたらします。ホワイト・ヘルメットがその実例です。